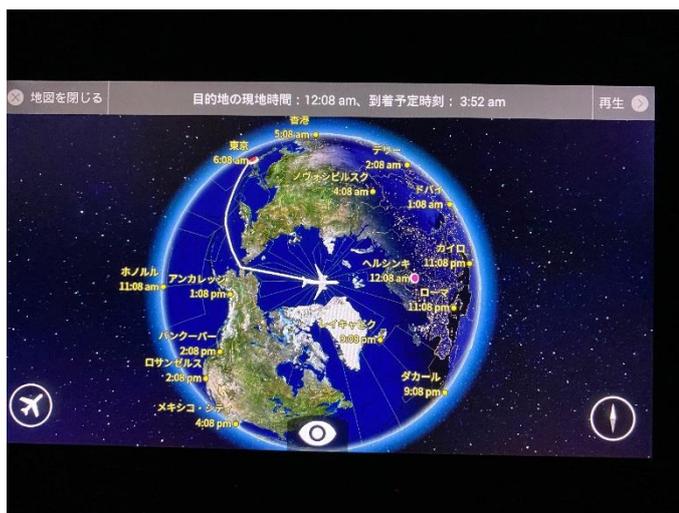
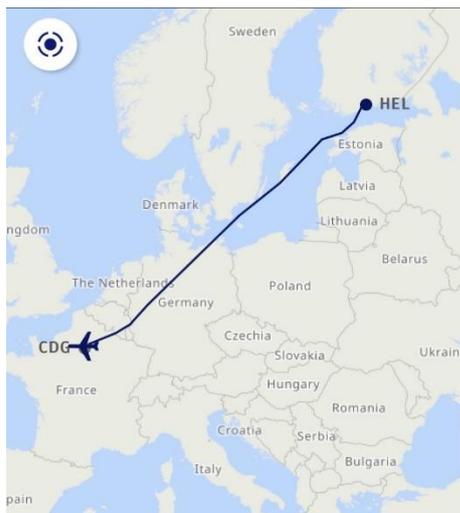


Bonjour, tout le monde! 皆さんこんにちは!

現在フランスの Lille という町に留学中の高1 大屋あかりです。

私は 8 月 23 日に成田空港を出発し、北極点の真上を通過した後ヘルシンキ空港で乗り換え、パリのシャルルドゴール空港に 24 日に到着しました。約 16 時間のフライトは本当に長かったです…。



到着して早々、パリで 3 泊 4 日のオリエンテーションがありました。

空港からパリ市内へ向かうバスの中、気づいたらテレビやスマホの画面の向こう側だった世界が窓一枚隔ててすぐそばにありました。パリの街並みを初めて見たときは本当に感動して、一人でずっとニヤニヤしていました。実は空港で家族と別れても、飛行機に乗っても「これからフランス留学に行く」という実感が余り湧かないでいました。中 2 の冬から留学を考えてもう 1 年半近く。「いつになったら行けるんだ!」と長い間ずっと待っていた、そのフランスについて降り立ったのです!感動のあまり泣く…ということはありませんでしたが、嬉しすぎてずっとニヤニヤが止まりませんでした。

パリでのオリエンテーションでは、各国から来た留学生が集まりエッフェル塔や凱旋門、ルーブル美術館やベルサイユ宮殿などの観光名所を一緒に回りました。出発前から「友達作るのが楽しみだなー!いろいろな国の友達が出来ると素敵!」と思っていたのですが、みんな英語ペラペラで何を言っているか分からず、初日は全然友達が作れずかなり本気で落ち込みました。実は他の団体から来た日本人が 6 人いて、困ったらその子たちに話しかけてしまう弱い自分に絶望しました。初日の晩、父に無事に到着したことを伝えると共にこのことを相談すると「同じ国同士で集まっちゃうのはしょうがない。まだ皆子どもだし社交性も高くないからね。」「自然体でいいんじゃない。日本人にも外国人にも話しかけたらいいんじゃない。」「気になる子が一人になったら話しかける。」と、アドバイスを受けました。色々な人から「頑張れ!」と応援されて、それに応えられないことにより自己嫌悪に陥っていたのですが、少し肩の力を抜いて、二日目からは自分から色々な人に話しかけることができ

した。この二日目でできた友達とはその後仲良くなり今でも連絡を取り合っています。他の留学生と初めて会ったとき、年齢はさほど変わらないのにみんな本当に大人っぽくて話しかけるのを躊躇していたのですが、今思うと父の言っていた通り、同じ国出身の子たちで集まっていたな、と思います。それでも、みんな話しかけると「本当に初対面!？」とびっくりするほどフレンドリーで、私の言いたいことが伝わらなくても理解しようと頑張ってくれて、本当に優しい人達ばかりでした。今、もしあの時の自分にアドバイスできるなら「焦らなくていい。不安がらなくていい。みんないい人達だから、自分のできる範囲で話しかけてみようよ。」と言ってあげたいです。



ここで、フランスに来て驚いたことを紹介します！

まず、みんなマスクしてな——————い！(笑)空港から出た時点でマスクをしていたのは同じ日本人の留学生だけでした。最初は外すことに躊躇していたのですが、今では「え、日本ってまだマスクしてるの？」と逆に聞きたくなります(笑)つい最近知ったことなのですが、フランスでもマスクをしなくていいとなったのは今年の5月くらいだそうで、その後もメトロ内ではマスクの着用義務があったようですが、それも後に任意になったそうです。フランスでは知り合いや家族に会うと握手やハグ、bise (頬にするキスのこと)をよくします。マスクのある生活はフランス人にとってどれほど窮屈だったのか、想像するのは難しくないですね。

次に、みんなすごく露出度の高い服を着ている（女子）こと。腹だしなんて当たり前、水着みたいなトップスを着ている子もたくさんいました。日本だとおなかを少し出すだけでも「おおお」となるのに…。今私が滞在している Lille は9月から冷え込み、まだ寒さに慣れていない私はダウンコートを着てぶるぶる震えているのですが、そんな私の隣で信号待ちしている子は普通に腹だししているという…。こんなに着込んでいる自分がばかになりました(笑)フランスについての当初は、日中は日本と変わらない暑さでも朝晩は冷え込み、今はお昼の時間帯になると過ごしやすいのですが、毎朝の服装選びにはとても時間がかかります。また今は日本でいう梅雨の時期なので雨傘も欠かせません。日本の梅雨は蒸し暑いですが、フランスの梅雨は雨が冷たく、これはこれでツライです…。でも雨もずっと降っているわけではなく、一度に一気に降ってすぐ止みます。

オリエンテーション最終日、わずか3泊4日でしたが一緒に過ごした仲間とお別れが本当に寂しかったです。それぞれが最終目的地へ向けて旅立っていきました。私のホームタウン、Lille はパリからTGV（日本でいう新幹線）で1時間ちょっとなのですが、人によっては5時間近くかけてホストファミリーのもとへ行く人も…。



駅でホストファミリーと会った時、「ずっとこの時を待っていた」と泣き出してしまいました。泣くつもりなんて全然なかったし、元気に「Bonjour!」と言いたかったのに、「Bon…」まで言うとか、緊張の糸が切れたかのように涙があふれて止まりませんでした。今年の3

月にホストファミリーが決定して以降、メールのやり取りはもちろんビデオ通話もして、ずっと会うのを本当に楽しみにしていました。ホストマザーも少し涙ぐんでいて「あー、この人たちはもう私の家族だな」と実感したのを覚えています。その後メトロに乗って家へ向かいました。現在、私はあの時泣いた駅を毎朝使って登校しています。家へ到着後、「le goûter」（グテ：日本でいうおやつの時間）に庭でホストファザーが焼いてくれたクレープを食べ、「l'apéro」（アペロ）に Chips（ポテトチップス）やオリーブをつまみました。「l'apéro」とは週末や特別な時に昼食または夕食前に軽い食事をしながら会話を楽しむものです。我が家では金曜日になると「週末だー！一週間お疲れ様！」ということで apéro をします。これは私の一週間のご褒美でもあります(笑)



その後学校が始まるまでホストファミリーに Lille 市内を案内してもらったり、家でゆっくり過ごしていました。実はこの間体調を崩していました。パリでは唇がすぐ乾燥してリップクリームを常備していたのですが、それが落ち着いたところに今度は喉がやられ…自分では自覚していなかったのですが、ホストファミリーと無事に会えたことで今までの緊張が一気に解け疲れがどっときたのでしょうか。

フランスへ来て早二か月。フランスでの生活や、現地で驚いたことなどは、また次の機会にお話ししますね。お楽しみに(笑)！書き始めると止まらなくなってしまうかもしれませんがこんな長い文章を最後まで読んで頂きありがとうございます！

Au revoir!